

じゅんさんの

あおもり

気象防災知恵袋



18

の、各種データのうち、昨年来話題の統計値を一覧にした(図参照)。今年は何といても、8月上旬に日本列島が大騒ぎとなった、ノロノロ台風5号である。気象庁は毎年、705号」となる。

台風の発生から無くなるまでを「発生期」「発達期」「最盛期」「衰弱期」「消滅」と分けることがある。発生から消滅までを寿命とすると、最短期の台風は約3時間、平均

父と母は懸命に窓を押さえていた。昭和29年9月26日、洞爺丸台風の来襲である。昭和20年代前後は、大型台風によって数千人規模の犠牲者がたびたびあった。洞爺丸台風(台風5415号)では、青函連絡船・洞爺丸の沈没等で1700人超の死者・行方不明者が出た。その大きな原因の一つは台風の不意打ちだ。その後、気象庁は早期に捉えようと世界最大級の気象レーダーを富士山山頂に設置。さらに気象衛星ひまわりの打ち上げなどにより、台風情報は格段に充実した。しかし、利用する側が台風をよく知り、情報をかきこく使つのも大切だ。避難情報への適切な対応も望まれる。

平年の発生数 25・6個

台風は大いに注目されるが、詳しいことは意外に知られていない。まずは定義。昔は熱帯地方で発生する顕著な低気圧はすべて台風だったが、1951(昭和26)年に最大風速を決めて統計を取り始め、53年に法律に明記(図参照)された。

次は平年値。気象庁は、西暦年の1の位が1の年から続く30年間の平均を平年値とし、10年ごとに更新している。現在は、81年〜2010年のデータによる平年値を使っている。平年値が分かったところで、平年の台風発生数25・6個、上陸数2・7個はぜひ知っておいてほしい。60年以上にのぼる台風統計

今月のお題 台風の記録

台風の定義

台風の定義は、昭和28年(1953年)の気象業務法施行以来、「東経180度以西、赤道以北の西太平洋で熱帯低気圧域内の最大風速が34ノット(約17.2m/秒)以上のものを台風」としている。

台風の主な平年値

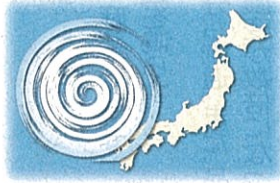
年間の発生数	25.6個	(最多は1967年の39個、最少は2010年の14個)
年間の接近数	11.4個	(最多は2004年の19個、最少は1973年の4個)
年間の上陸数	2.7個	(最多は2004年の10個、最少は0個で4回あり)

長寿台風

順位	台風番号	発生日時	消滅日時	台風期間
1	8614	1986年 8月18日15時	1986年 9月 6日21時	19日 6時間
2	7207	1972年 7月 7日21時	1972年 7月26日21時	19日 0時間
3	1705	2017年 7月21日09時	2017年 8月 9日03時	18日18時間
4	6722	1967年 8月30日09時	1967年 9月17日15時	18日 6時間
5	9120	1991年 9月16日15時	1991年10月 2日09時	15日18時間

台風1号発生の遅い記録

順位	発生日時
1	1998年(H10) 7月 9日15時
2	2016年(H28) 7月 3日09時
3	1973年(S48) 7月 2日03時
4	1983年(S58) 6月24日09時
5	1952年(S27) 6月10日03時



は1週間程度だが、今年の5号は18日を超えて歴代3位の長寿となった。

また昨年は、1号発生の遅さが話題になったが、歴代2位の遅さだった。逆に1号の早い記録は、1月2日が2回、1月3日も2回あり、熱帯地方では台風発生に冬も正月も関係ないのである。さて、私が4歳の時の一場面が妙に記憶に残っている。家の大切なものを風呂敷に入れて、私の腰に巻きつけ、弟と2人でこたつに寝そべっていた。風が強く家全体が揺れ、

定。 ※次回は10月17日に掲載予定。
(工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住)